

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：水稻の生育状況（7月15日現在）について

発信日：2020年7月17日

1 内容

平年値(2010～2019年までの過去10年平均)と比べ、7月15日現在の水稻の生育状況は以下の表1のとおりです。

表1 水稻の生育状況(7月15日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬*	やや長い	同等	やや濃い
	6月中旬**	長い	同等	やや濃い
キヌヒカリ	6月上旬	やや長い	同等	同等
	6月中旬	長い	少ない	濃い
さとじまん	6月上旬	やや長い	少ない	やや濃い
	6月中旬	長い	やや多い	やや濃い

*2014～2019年までの過去6年平均との対比 **2015～2019年までの過去5年平均との対比

2 留意事項

(1) 気象

気象庁が7月16日に発表した1か月予報では、気温は「ほぼ平年並」、降水量は「平年並か多い」、日照時間は「少ない」となっています。

(2) 出穂期

7月15日現在の生育状況と今後の気象予報から判断すると、出穂期は平年並みと考えられます。

(3) 追肥

追肥は、玄米の充実促進と外観品質向上のために実施します。

追肥時期は幼穂の長さから判断し、施用量は水稻の生育状況や品種、水田の状況により調整を行います。5月下旬植えの「はるみ」や「キヌヒカリ」は追肥の施用時期になりますので、幼穂長を確認してから施用しましょう。※幼穂長の測定方法は、次のページを参照参考までに、平年の追肥時期と施用量は以下のとおりです。

◎平年の追肥時期と施用量

- はるみ 時 期：出穂期の15日前頃 【幼穂長15～20mm程度】
施用量：窒素成分2kg(10a当たり化成肥料17-0-17では12kg程度)
- キヌヒカリ 時 期：出穂期の20～15日前頃【幼穂長2～20mm程度】
施用量：窒素成分2kg(10a当たり化成肥料17-0-17では12kg程度)
- さとじまん 時 期：出穂期の15～10日前頃【幼穂長15～80mm程度】
施用量：窒素成分2～3kg(10a当たり化成肥料17-0-17では12～18kg程度)

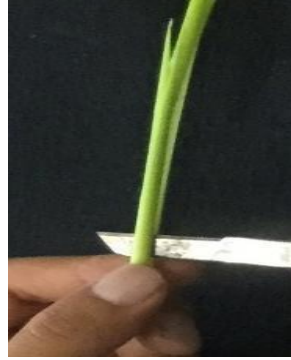
◎施用時期及び施用量の判断

- ・日照不足や、低温の場合は施用時期を少し遅らせます。
- ・湿田や堆肥を施用した場合は少なくします。

○幼穂長の測定方法

1. 株の中で草丈が一番長く、
太い茎を根元から抜く。
2. カッター等で茎を縦方向に切る
【写真1】。
3. 幼穂の基から先端までの長さを
測定する【写真2】。

※手を切らないように注意！



茎の切り方【写真1】



幼穂長の計測【写真2】

(4) 水管理

穂ばらみ期（出穂期の15日前頃）から出穂後10日までの期間は、稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らさないように注意します。ただし高温時は、かけ流しかん水等を行い、高温障害による白未熟粒の発生を回避します。

(5) 病虫害防除

○スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）【写真3】

ピンク色の卵塊【写真4】を水田内、畦畔・水路周辺で確認したらすべて潰します。水田内への侵入・隣接水田への被害拡大を防ぐために、水口・水尻に6～9mm目合いの網を設置して捕殺します【写真5】。



稲株元のスクミリンゴガイ【写真3】



スクミリンゴガイの卵塊【写真4】



網の設置の様子【写真5】

○斑点米カメムシ類【写真6】

斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底することが有効です。ただし、出穂期頃の除草は、カメムシ類を水田に追い込むことになるため、畦畔雑草の除草は出穂10日前までに必ず終わらせます。



ホソハリカメムシ【写真6】

○イネツトムシ（イチモンジセセリ）【写真7】

イネツトムシのふ化最盛日（県平均）は、「平年よりやや早い」7月19日頃を予測しています（県内各地域の予測ふ化最盛日は、病虫害防除部のホームページを参照（病虫害情報 号外第4号））。薬剤の剤型にあわせて適期に防除を行ってください。

※病虫害の発生状況等については、病虫害防除部の情報等に注意しましょう。



イネツトムシ【写真7】

左上;被害状況 右上;卵

左下;成虫 右下;幼虫

(6) 農作業中の熱中症に注意しましょう！

日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょ。汗で失われた水分を十分に補給するとともに、帽子の着用や、汗を発散しやすい服装に心がけましょ。

高温多湿の環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高まりやすいです。屋外で人と十分な距離を確保できる場合は、マスクを外しましょ。マスクを着用する場合は、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心がけ、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的に外して休憩しましょ。

【参考】

表2 農業技術センター（平塚市）での過去10年平均値

作期	品種名	中干し時期	穂ばらみ期	出穂期
5月27日植	キヌヒカリ	7月7日頃	7月22日～8月6日頃	8月6日*
	さとじまん	7月14日頃	7月29日～8月13日頃	8月13日*
6月7日植	はるみ	7月11日頃	7月26日～8月10日頃	8月10日
	キヌヒカリ	7月10日頃	7月25日～8月9日頃	8月9日
	さとじまん	7月17日頃	8月1日～8月16日頃	8月16日
6月17日植	はるみ	7月17日頃	8月1日～8月16日頃	8月16日**
	キヌヒカリ	7月16日頃	7月31日～8月15日頃	8月15日
	さとじまん	7月21日頃	8月5日～8月20日頃	8月20日

- ・ 穂ばらみ期は、出穂期約15日前～出穂期までの期間。水稻が最も水分を必要とする時期であるため、水田の水を十分に保つようにする。
- ・ * ; 5月下旬植については、2002～2006年（5年平均）のデータに基づく。
- ・ ** ; 6月中旬植の「はるみ」については、2010～2012、2015～2019年（8年平均）のデータに基づく。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課
平塚市上吉沢1617
TEL : 0463-58-0333 内線 381～384
FAX : 0463-58-4254